

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (④ 困難を抱える親子を対象とした自然体験活動推進事業)

「ここのえふれあい塾」

大分県教育委員会

【事業のポイント】

- 地域プラットフォームを活用し、九重の自然ブランド力を最大限に活用できるプログラムを構築し実践する。
- 青少年の家だからできる九重の自然ブランドを活用した体験活動を行う。
- 事業に参加する仲間と協力し作り上げる活動を通して、自己受容や他者受容できる場面を設定する。



「仲間作り」



「自然の恵み鍋を作ろう」

1. 企画

(1) 事業実施の背景

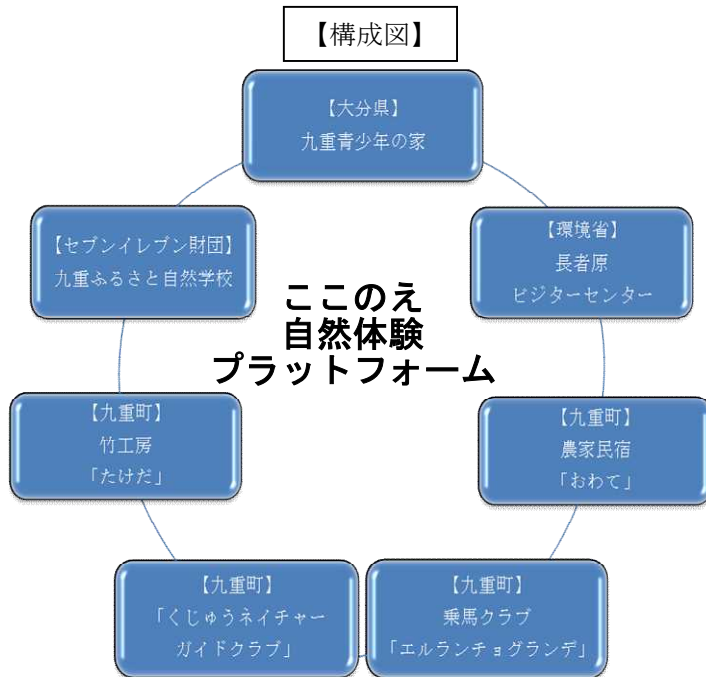
子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等が求められている。青少年教育施設における自然体験活動により、豊かな心を育むことが求められている。児童養護施設等と公立青少年教育施設が連携し、困難を抱えた親子等のニーズに応じた自然体験プログラムを開発・実施する取組はなされていない。

(2) ねらい

県立青少年の家を拠点として、国立公園内にある「ここのえ」の魅力を体験する活動を県民に伝えることを目指す「ここのえ自然体験プラットフォーム」を設立する。そのプラットフォームを活用して、児童養護施設、母子生活支援施設等の子どもを含む困難な状況の親子等を対象に、飯田高原・長者原エリアの自然体験活動を提供することにより、仲間や親子の絆を深めるとともに、大分県の恵まれた環境を未来に継承する人材を育成する。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成



【構成メンバー】

- <大分県>
 - ・大分県立九重青少年の家 担当 栗林 太郎
- <環境省>
 - ・長者原ビジターセンター センター長 種村 英大氏
- <セブンイレブン財団>
 - ・九重ふるさと自然学校 代表 川野 智美氏
- <九重町>
 - ・農家民宿「おわた」 代表 時松和弘氏
 - ・乗馬クラブ「エルランチョグランデ」 代表 瀬戸 富美氏
 - ・ここのえネイチャーガイドクラブ 代表 増田 啓次氏
 - ・竹工房「たけだ」 代表 武田 富治氏

(2) 具体的な取組の概要

【ネイチャー体験編】		
日 時	プログラム	プログラム詳細
10月14日(土)		
13:00～15:00	■ ミッション1 「乗馬教室」 指導 エルランチョグランデ職員	親子で乗馬をし、自然や動物とふれあう楽しさを実感する。
16:00～19:00	■ ミッション2 「ネイチャークッキング」 指導 九重青少年の家職員	親子や仲間との調理・会食を通して、親睦を深める。
20:00～21:00	■ ミッション3 「星空探険」 指導 九重青少年の家職員	プラネタリウムで事前学習を行った後、天体望遠鏡を活用して星空観察を行う。
10月15日(日)		
7:00～10:00	■ ミッション4 「親子クッキング」 指導 九重青少年の家職員	親子や仲間との調理・会食を通して、親睦を深める。
11:00～18:00	■ ミッション5 「農業体験」 指導 農家民宿「おわた」	親子豆腐作り等を通して、飯田地区の農業について実体験する。

10月14日(土)

ミッション1：「乗馬教室」

馬の扱い方についての指導を受けた後、約800メートルの林道を親子で乗馬体験をした。生まれて初めて馬に乗るワクワク感はたまらないものだったようだ。母親と一緒に乗馬している親子にとって、貴重なひとときとなったようだ。

また、厩の清掃、えさやり(馬、うさぎ、犬)、馬のブラッシングを通しての動物とのふれあいも、とても興味深々で、どの子も意欲的に取り組んでいた。中には、馬ににんじんをやる勇気が出なかった子どももお母さんと一緒にえさやりができて、満足気な表情をしていた子どもの表情がとても印象的だった。

最後に、ボルダリング、ツリーハウスを親子で楽しむ活動をした。



「乗馬体験をしよう」

ミッション2：「ネイチャークッキング」

8家族を3つの班に分けて、親子で自然の恵み鍋作り(九重特産の鴨鍋)に挑戦した。初めて親子で調理をするご家族、子どもさんが幼く一緒に調理するのが難しいご家族もあったが、班を越えて、他の子どもさんのお世話をする姿がとても印象的だった。この調理活動を通して、連帯感がぐっと高まっていったようだ。

ミッション3：「星空体験」

1日目の最後の活動の星空観察は、雨天のため、プラネタリウム鑑賞(今日の星座、星のお話、宇宙の中のわたしたち)に変更になった。全員がプラネタリウム鑑賞は初めてで、とても印象深い体験でもあったようだ。

10月15日(日)

ミッション4：「親子クッキング」

親子でホットドッグ作りに挑戦した。互いが打ち解け、ホットドッグを作り、会話の弾む楽しい会食となった。

ミッション5：「農業体験」

いよいよ最後の活動である。農家民宿「おわた」は、140年前に建てられた日本家屋。家の中のはり、囲炉裏、かまど、堀こたつ等、日本の伝統文化についての説明には、皆さん興味深々で耳を傾けていた。豆腐作り、囲炉裏で豆をゆがく、ヤギの乳搾りの体験をした。石臼を回す等の豆腐作りの行程を自らが体験した。中には、豆腐が苦手だった子どもがいたが、初めて食してみることもできた。



「豆腐作りに挑戦しよう」

振り返り

最後に、2日間を振り返っての感想交流をした。子どもたちからは、印象に残ったことを自分の言葉で言えていた。また、保護者の皆さんからは、講師やスタッフへの感謝や支えてくれた他のご家族への感謝も多くいただき、とても和やかな雰囲気の中で本事業を締めくくることができた。

☐ 【トレッキング編】

日 時	プログラム	プログラム詳細
11月3日(金)		
13:30~13:50	開会行事・オリエンテーション 指導 九重青少年の家職員	・挨拶 ・施設の使い方
14:00~14:30	■ミッション1「チーム結成」 指導 九重青少年の家職員	構成的グループ・エンカウンターの手法を活用して「仲間づくり」「めあてづくり」を行う。
15:00~16:00	■ミッション2「竹食器作り」 指導 竹工芸「たけだ」代表	竹と人々の暮らしについて学び、竹食器を作る。
17:00~19:30	■ミッション3「ネイチャー・クッキング1」 指導 九重青少年の家職員	仲間との調理・会食を通して、親睦を深める。
20:00~21:00	■ミッション4「秋の星空探険」 指導 九重青少年の家職員	プラネタリウムで事前学習を行った後、天体望遠鏡を活用して星空観察を行う。
11月4日(土)		
7:00~9:00	■ミッション5「ネイチャー・クッキング2」 指導 九重青少年の家職員	朝食・山賊弁当作り・会食を通して、親睦を深める。
10:30~15:00	■ミッション6「扇ヶ鼻登山」 指導 山岳連盟指導員	山岳連盟による指導の下、九州の最高峰に挑む登山を行う。
16:00~20:00	■ミッション7「ネイチャー・クッキング3」 指導 九重青少年の家職員	九重の自然の恵み鍋作り・会食を通して、親睦を深める。
11月5日(日)		
7:00~9:00	■ミッション9「ネイチャー・クッキング4」 指導 九重青少年の家職員	朝食作りを通して、親睦を深める。
10:00~11:30	■ミッション10「交流会とふりかえり」 指導 九重青少年の家職員	3日間を振り返り。

11月3日(金)

ミッション1：「チーム結成」

この事業に参加するA施設8名とB施設21名が初めて顔を合わせる場となった。構成的グループエンカウンターの手法を用いて、仲間作りを試みた。まずは、言葉を使わずジェスチャーだけで誕生日を伝え合うバースデイラインを行った。時間は要したがルールを守りラインを作ることができた。その後、簡単な自己紹介(学年・名前・好きなこと)を行った。だんだんと打ち解け始めた後、箱の中の物を触り中の物の名前を当てるブラックボックスを実施した。物を触る本人以外は、箱の中身を見れているので、ドキドキしながら触る様子を見て、大変盛り上がり、楽しめたひとときとなった。エクササイズ後の子どもから、「初めてあった人と仲良くなれた」「だんだん緊張しなくなった」等の感想が多くあった。

ミッション2：「竹食器作り」

竹工房「たけだ」代表の武田富治氏より、竹は人々が暮らす際利用されてきたことと、森が荒れ始め竹が増えてきている状況について語られた。子どもたちはその話に興味深く聞き入っていた。その後、班ごとに竹を切ったり割ったりする作業を協力して竹茶碗、竹皿、竹コップを完成させた。



「竹食器を作ろう」

ミッション3：「ネイチャー・クッキング」(バーベキュー)

作った竹食器を使って、最初のネイチャー・クッキング(バーベキュー)準備をした。班は異学年の構成となっており、高校生や中学生が年齢が下の子どもたちに指示をしたり、お世話をする姿が多く見られた。楽しく会食をし、片付けも協力して取り組めた。

ミッション4：「星空探険」

1日目の最後の活動の星空観察は、雨天のため、プラネタリウム鑑賞（今日の星座、星のお話、宇宙の中のわたしたち）に変更になった。全員がプラネタリウム鑑賞は初めてで、とても印象深い体験でもあったようだ。

11月4日（土）

ミッション5：「ネイチャークッキング」（朝食ホットドッグ 昼食山賊弁当）

班ごとにホットドッグ作りに挑戦した。互いが打ち解け、ホットドッグを作り、会話の弾む楽しい会食となった。同時に、昼食用の山賊弁当作りに挑戦した。ばくだんおにぎりに入れる具材を何にしようかおしゃべりをしながら楽しい弁当作りとなった。山岳ガイドや施設指導者の皆様への弁当作りにも意欲的に取り組み、その優しさを褒めた。

ミッション6：「登山」

寒波が入り、強い風とみぞれが吹き荒れる厳しい状況の中での登山となった。「足が痛い」「寒い」という言葉が飛び交う中で、子ども同士支え合いなんとか山頂に全員が登頂でき喜びあうことができた。山岳ガイドの皆さんや看護師さんには、怪我の手当て、防寒対策等で、子どもたちに温かいご支援をいただいた。



「秋の山に登ろう」

心より感謝。苦労してたどり着いた後のお弁当はとてもおいしくいただきました。

ミッション7：「下山」

厳しい天候の続く中、下山も苦労した。途中涙ぐむ子どもに寄り添い励ます子どもの姿に心を打たれた。予定よりも遅れた下山となったが、全員で登山・下山をできた満足感を味わえた。青少年の家に着いた後の振り返りで、苦しかったけれど、達成感を味わえたことと周りの人々の支えに感謝する感想がほとんどであったことは成果である。

ミッション8：「ネイチャークッキング」（自然の恵み鍋）

登山の後温泉で身体を温め休養した後、各班ごとに分かれて、自然の恵み鍋作り（九重特産の鴨鍋）に挑戦した。初めて鍋作りに挑戦する子どももいたが、みんなで協力して作り、みんなで味わう鍋は格別だったようである。この調理活動を通して、連帯感がぐっと高まっていった。

11月5日（日）

ミッション9：「ネイチャークッキング」（和朝食 昼食サンドイッチ）

最後の調理活動。おいしい和朝食と昼食のサンドイッチ作りに挑戦した。感心したことは、片付けまで協力しながら取り組めたことである。自分達で後始末までしっかりとできた。年上の子どもがよきリーダーシップをとってくれたことと、他者から感謝されるということの喜びがエネルギーともなっているのかと感じた。

ミッション10：記念品を作ろう

記念品の勾玉作りに挑戦した。約2時間の作業でしたが、集中して取り組んでいた。中には、「お母さんにあげたい」と言い作っている子どももいた。それぞれの思いを込めた素晴らしい作品に仕上がった。

ミッション11：振り返り・分かち合い

最後に、3日間を振り返っての感想交流を行った。子どもたちからは、印象に残ったことを自分の言葉で言えていた。特に、新たに見つけた友達の良いところ、自分の良いところをみんなの前で紹介し合った時の子ども達の表情はとても光り輝いていた。また、指導者の皆さんからは、講師やスタッフへの感謝の気持ちを言っていたり、来年度も参加させていただきたいというお言葉もいただけたことは嬉しく思った。とても和やかな雰囲気でも本事業を締めくくることができた。

(3)実績スケジュール	
月 日	内 容
6月5日(月)	第1回地域プラットフォーム関係者会議(長者原ビジターセンター)
6月6日(火)	第2回地域プラットフォーム関係者会議(ふるさと自然学校)
6月19日(月)	第3回地域プラットフォーム関係者会議(エルランチョグラнде)
6月20日(火)	第4回地域プラットフォーム関係者会議(農家民宿おわて)
7月4日(火)	九重山系事前踏査
7月6日(木)	第5回地域プラットフォーム関係者会議(ネイチャーガイドクラブ)
7月11日(火)	九重山系事前踏査
7月20日(木)	第6回地域プラットフォーム関係者会議(竹工芸「たけだ」)
8月7日(月)	第7回地域プラットフォーム関係者会議(農家民宿おわて)
8月17日(木)	第8回地域プラットフォーム関係者会議(エルランチョグラнде)
8月23日(水)	第9回地域プラットフォーム関係者会議(ネイチャーガイドクラブ)
10月14日(土) ～15日 (日)	ここのえふれあい塾「ネイチャー体験編」
11月3日(金) ～5日 (日)	ここのえふれあい塾「トレッキング編」
12月8日(金)	第10回地域プラットフォーム関係者会議(長者原ビジターセンター・ふるさと自然学校)

3. 成果と課題

(1) 成果

(1) 成 果

○「乗馬体験」、「動物とのふれあい体験」、「豆腐作り」、または「ネイチャークッキング」等の自然体験活動では、幼児を含む複数の家族同士の支え合いが生まれ、事業全体への満足感の高まりにつながった。また、講師、看護師やスタッフが子ども一人ひとりに寄り添い支援してくれたことにより、自然の中で活動することの楽しさも体感させることができた。

○母子生活支援施設等の子どもを含む困難な状況の親子等を対象の事業プログラムの作成において、「地域プラットフォーム」の有識者から「生き物とふれあう活動」と、「食す活動を取り入れた農業体験」を組み込むとよいというアドバイスをいただけたことは、参加者アンケートの「乗馬や馬の世話に意欲的に取り組めた」の項目100%、「豆腐作りに意欲的に取り組めた」の項目87.5%から、とても有効であったと言える。

○「ネイチャークッキング」において、3班に編成し、互いに協力し調理・会食をすることや、様々な活動の際他の家族のサポートをする場面も多くあり、互いに助け合う温かい支え合いが生まれ、「参加された方々が自分の子どものように接してくれる温かさに感動した」「保護者同士で悩み等を共有する場がほしい」という感想があったことは成果ととらえている。

【トレッキング編】

(1) 成 果

○「竹食器作り」、「ネイチャークッキング」、または「秋の山に登ろう」等の自然体験活動では、指導者(施設指導者、看護師、またはスタッフ)が子ども一人ひとりに寄り添い支援してくれたことにより、自然の中で活動することの楽しさを体感させることができた。

○児童養護施設の子どもの対象の事業プログラムの作成において、「地域プラットフォーム」の有識者から「支え合えるような自然体験活動」と、「九重の自然の恵みを協力して調理して食す活動」を組み込むとよいというアドバイスをいただけたことは、参加者アンケートの「登山に協力してがんばれた」の項目86%、「自然の恵み鍋作りに協力して取り組めた」の項目100%から、とても有効であったと言える。

○「○○さんは誰とでもすぐに仲良くなれるところがよい」「年下の子どもを○○さんが優しくお世話をしていた」「自分は登山の時に足を怪我したけれどがんばり通せた」等の感想から、他者や自己の良さを振り返らせ伝えることにより、自己・他者受容を深めていくことができたと言える。

(2) 課題

【ネイチャー体験編】

(2) 課題

- 幼い子ども、または個別にサポートする必要のある子どもが多くおり、マンパワーと事前打合せを綿密に行い、安全面を配慮した綿密な支援準備が必要である。
- 1泊2日という限られた時間の中で、九重の雄大な自然を体感し親子の絆を深めるプログラムを提供するためには、今後も「地域プラットフォーム」の有識者からの貴重な意見を多くいただき、事業実施につなげていかなければならない。
- 参加者募集は、各市町村担当窓口、母子寡婦福祉連合会、母子生活支援施設を中心に行ったが、各家族への周知には時間も要し、全家庭への周知が難しいことが分かった。周知方法の検討が必要である。

【トレッキング編】

(2) 課題

- 様々な事情のある子ども達が多くいるので、安全面への配慮と活動の更なる深まりのために、施設同士、またはスタッフを含めた事前打合せを綿密に行い、子ども理解と支援の仕方を共有していく必要がある。特に、登山のような自然とふれあう厳しさに直面し、協力して乗り切らなければならないような活動については、トレッキングガイドも含めて班のみんなで協力してクリアできるようなエクササイズを事前に取り組んでおくことも有効かもしれない。
- 施設職員によれば、児童養護施設の子どもたちは、自分が悪いからあずけられているという自己否定の子どもが多いそうである。また、同じ施設の中で生活している他者のよさを再認識させるには、エクササイズ自体の質が問われる。自己肯定感を高めていくためのプログラムの構築のためには、今以上の「地域プラットフォーム」の活用が求められる。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

今年度は「地域プラットフォーム」を設立し、困難を抱える親子対象自然体験活動推進事業「このえふれあい塾」のプログラム構築において活用できた部分もあるが、九重にはまだ豊富な人材と自然体験に生かせる資源がある。その人材と資源を生かすネットワークとしての「地域プラットフォーム」は、スタートしたばかりである。組織の更なる充実を図り、それぞれの機関が連携し、特色を生かした事業の開発につなげていきたい。
年度ごとの具体的計画は以下の通りである。

30年度

- ① 「地域プラットフォーム」の組織の拡充・連携と、今後の九重の資源（人材と自然体験プログラムに生かせる素材）の発掘とプログラム構築を図り、資源を生かした事業の開発につなげていきたい。
- ② 2年目以降も、各団体の強みを生かした事業継続の方策を講じる。

31年度

- ① 地域プラットフォームと大学が連携し、学生ボランティア等の人材育成を図る団体として発展させる。青少年の家は引き続き支援を継続する。

5. 団体プロフィール

**九重の大自然
を
満喫しよう！**



大分県立九重青少年の家

〒879-4911

大分県玖珠郡九重町田野204-47

TEL0973-79-3114 FAX0973-79-3115